

第8期（2025年度）
一般社団法人渋谷未来デザイン
事業報告書

自 令和7年（2025年）4月 1日
至 令和8年（2026年）3月31日

目次

1 現況に関する事項	2
2 事業活動に関する事項	3
(1) 事業の概況	
(2) 主な事業の状況と成果	
① 地域課題解決事業	
② 地域交流・活性化事業	
③ 地域可能性創造事業	
④ コーポレート系事業	
3 パートナー企業に関する事項	8
4 パブリックパートナーに関する事項	8
5 役員に関する事項	9
6 Future Designer に関する事項	9
7 会議に関する事項	10

1 現況に関する事項

令和7年度は、社会・経済活動が本格的に再始動する中で、都市に求められる役割そのものが大きく変化した一年となりました。人流・情報・カルチャー・テクノロジーが高密度に交差する渋谷では、社会課題と未来の可能性が同時に表出し、都市には単なる課題解決だけではなく、“新しい価値を共創し社会実装する力”が求められる時代へと移行しています。

こうした中、一般社団法人渋谷未来デザイン（以下、FDS という。）は、「産官学民共創によって都市の未来を構想し、社会実装まで導く都市共創デザイン組織」として、活動領域・ネットワークともに大きく拡張した一年となりました。

令和7年度は、新たな企業・団体・行政・教育機関・地域プレイヤーとの連携が進み、共創パートナーシップがさらに拡大しました。単発的なイベント連携ではなく、渋谷区が抱える都市課題や未来テーマに対し、企画・構想段階（川上）から、実証・発信・社会実装（川下）までを一気通貫で推進するプロジェクトが増加し、FDSの存在価値と役割はより明確なものとなりました。

特に、Social Innovation Week（SIW）を中心とした対話・発信機能に加え、ウェルネス、スポーツ、教育、防災、環境、XR・メタバース、公共空間活用など、多様なテーマにおいて、渋谷から未来の都市モデルを生み出す取り組みを推進しました。社会課題を単なる「解決すべき問題」として捉えるのではなく、“未来への問い”として可視化し、多様な主体が参画できるプロジェクトへ転換することで、共創の循環を生み出しました。

また、渋谷区基本構想「ちがいを ちからに 変える街。」の実現に向け、若者や次世代プレイヤーの参画、都市とカルチャーの接続、リアルとデジタルを横断した都市体験の創出など、渋谷ならではの先進的な挑戦も進展しました。渋谷という都市を“未来を実験・実装するフィールド”として活用しながら、行政・企業・地域・市民がともに未来をつくる基盤形成を推進しています。

「渋谷の課題は、日本の未来課題である。」FDSは、渋谷で生まれる問いや実践を、全国・世界へ展開可能な“渋谷モデル”として社会へ実装することを目指しています。共創を単なる“活動”で終わらせるのではなく、“都市の社会基盤”へと進化させること。未来を構想するだけではなく、実装まで伴走する都市共創プラットフォームとして、持続可能で多様性あふれる社会の実現に向けた挑戦を、今後も推進してまいります。

第8期はコミュニティツールを活用したパートナー企業との情報共有の強化や会員限定の学びの場「Co-Creation Academy」の開講など、会員企業との連携や満足度の向上をはかり、157の会員を迎えることができました。

また、財務面では、パートナー企業からの協賛金、法人会費等により、3億7519万円の経常収益（売上高）となり収支については黒字を維持し安定した運営を継続しています。

2 事業活動に関する事項

(1) 事業の概況

FDS が実施した第 8 期事業は、表 1 のとおりです。

表 1 FDS の事業体系

事業分野	プロジェクト名
地域課題解決事業	<ul style="list-style-type: none">● ソーシャルイノベーションウィーク (SIW)● カーボンニュートラルアーバンデザイン (CNUD)● みらいの図書室● もしもプロジェクト● 渋谷グッドマナープロジェクト
地域交流・活性化事業	<ul style="list-style-type: none">● ササハタハツまちラボ● 渋谷プレイグラウンド● わたしたちのウェルネスアクション● 渋谷スマートドリンクプロジェクト● アーバンファームプロジェクト
地域可能性創造事業	<ul style="list-style-type: none">● アーバンテック(先端技術の地域活用)● これからのまちづくり戦略
コーポレート系事業	<ul style="list-style-type: none">● 法人会員制度

(2) 事業の状況と成果

・地域課題解決事業

ソーシャルイノベーションウィーク (SIW)

SIW2025 は、「毎日に、好奇心を。未来にアイデアを。」をテーマに掲げ、2025 年 10 月 27 日から 11 月 3 日までの 8 日間開催し、延べ約 7 万人が参加しました。

行政・企業・区民・学生など多様な主体が集い、環境、教育、都市防災、ウェルネス、カルチャーなど幅広い分野で社会課題を横断的に捉える議論が展開され、新たな視点と知の共有が行われました。

また、社会実装につながる優れたアイデアやアクションの表彰や、公共空間を活用した体験型プログラムを通じて「未来の日常」を体感する場を創出しました。SIW2025 を通じて生まれた学びやつながりが、渋谷から持続可能な社会づくりを推進する循環の基盤になることを確信しています。

カーボンニュートラルアーバンデザイン (CNUD)

2025 年度は国土交通省の「脱炭素・クールダウン都市開発推進事業」の補助金採択を受け、快適な屋外クールスポットの構築と屋外緑化や省エネ運用を平行して実施し、消費電力量のオフセットに成功しました。また、(一社)渋谷国際都市共創機構の「支援対象会員プロジェクト」では、猛暑の中でも安全・快適に過ごせる都市環境形成を目的とする「熱中症ハザードマップ (道玄坂エリア)」を作成・公開しました。

さらに SIW では「CONFERENCE」や「DIALOG」、3つの環境トークセッションを展開し、Z世代の環境意識や緑の多角的評価基準、夜の涼しさを楽しむ「ナイトシフト」など多くのアイデアが生まれました。

これらの取組を通じてクリエイティブな視点から新たな事業創造と持続可能な都市環境の実現を目指し続けます。

みらいの図書室

一人ひとりが好奇心と出会い、多様な価値観に触れ、自分を見つける事ができる第三の居場所として、週2日、年間69日開室しました。

FDSオリジナルプログラムに加え、企業や大学、地域団体と連携し、タブレット端末を活用したデジタルクリエイティブや、デザイン、環境、音楽、スポーツなど多様な分野のプログラムを実施しました。

もしもプロジェクト

2019年まで開催されていた渋谷区総合防災訓練（SHIBUYA BOSAI FES）の流れをくんで始まった『もしもフェス』は酷暑の中での開催となったものの、15,556人の方々にご来場いただき、過去最多の協賛・協力社数101団体、メディア掲載数1,070媒体を記録しました。2025年度は万博の影響により大阪での開催は見送られましたが、名古屋でも開催し、防災活動の全国モデルへ発展。また、PTAと連携した避難所お泊まり体験は初めて中学校で実施しました。また、マモリシュラン（店舗の防災力向上施策）も初の認定店舗を獲得しました。

渋谷グッドマナープロジェクト

安全で安心な国際都市の実現を目指し、迷惑行為の防止やマナー啓発活動を通年で実施しました。様々な企業、団体とコラボして年間約40回延べ約700名が清掃活動に参加しました。人気アニメと連携した啓発動画や情報発信を強化し、広く認知を拡大デジタル施策ではハロウィーンにあわせて、Robloxでマナー啓発ゲームを展開。また、喫煙課題にフォーカスした「Action for 0」や、交通課題とマナー啓発をおこなう「Shibuya Safe Ride Project」も始動し、多岐にわたり活動を行いました。

・地域交流・活性化事業

ササハタハツまちラボ

笹塚・幡ヶ谷・初台エリアの魅力向上を目的とした共創プラットフォーム「ササハタハツまちラボ」の事務局として、知名度向上やファン層の拡大に向けた施策を推進すべく、まちで活躍している人にフォーカスしたインタビュー記事作成や、ホームページのリニューアルを実施しました。

また、企業連携の促進や事業相談を実施するとともに、エリアの担い手が集う

「388AreaMakers」のイベントを開催し、まちラボの今後の取り組みを地域に共有しつつ、トークセッションやワークショップを通じ、官民連携の強化と持続可能な地域づくりを支援しました。

渋谷プレイグラウンド

2025年度は、Spot.Yoyogi Park の開業およびストリートスポーツクラブ渋谷を4月より開始しました。ストリートスポーツクラブは、Spot.Yoyogi Park を拠点に約15名の生徒を迎え、部活動としての運営をスタートし、年間を通じて子どもたちの成長機会の創出に取り組みました。

また、拠点であるBESTAGEにおいては、自社主催のコミュニティイベントに加え、企業との共創による各種イベントを実施し、FDS関連イベント全体で延べ約2万人の来場を記録しました。特にスケートボードパークにおいては、スケートコミュニティとともにイベント等を通じた場づくりを行い、利用者アンケートを活用しながら関連企業と連携のうえ利用時間の延長を実現しました。

さらに後半には、スポーツ領域にとどまらず、パートナー企業と連携した「いい汗、渋谷。アクション」を立ち上げ、渋谷から新たな文化を発信する企業共創の事例を創出しました。

わたしたちのウェルネスアクション

2025年度よりプロジェクトの戦略を明確化し、コミュニティメンバーの刷新と年2回のリーダー・サポーターとの会議を新設しました。コミュニティの力を共創に活かせる体制づくりへと活動を発展させました。

さらに企業連携としてプリコンセプションをテーマとしたイベントの実施、生理用品ディスプレイの区施設での設置実証実験を主導。社会課題として母のウェルネスの日の制定と啓発を含むサンプリング、渋谷における女性のウェルネスに対する意識調査、防災×ウェルネスのアンケート、渋谷表参道ウイメンズランでの「自分時間」と「睡眠」にまつわるアンケートなど、今後のウェルネスアクションへと繋げるための社会課題の可視化を実施しました。

渋谷スマートドリンクプロジェクト

お酒を飲む人も飲まない人も楽しめる社会、新しいカルチャーとして渋谷を拠点に発信している「渋谷スマートドリンクプロジェクト」は、スマドリカルチャーの認知度向上の一環としてSIW2025に出展し、学生登壇セッション、渋谷アーバンファーマーミングプロジェクトと学生アンバサダー考案の野菜をメインとしたカクテル開発・販売を行いました。

MZ世代の飲酒傾向調査では、他都市と比べて渋谷は「飲むモチベーション（飲みべ）」も高く、ドリンクの多様性を求めている方や、飲み会の場をポジティブに捉えている人が多い傾向にあることがわかりました。

渋谷アーバンファーマーミングプロジェクト

2024年6月に発足した「渋谷アーバンファーマーミングプロジェクト」は、生物多様性を育む土台としてアーバンファーマーミング（都市農）を支援・推進する活動を行い、渋谷らしいコミュニティ形成と新たな食文化の実現を目指しています。17社のパートナー企業が参画し、キックオフミーティングや勉強会、ツアーを中心に開催。SIWではトー

クセッションを実施しました。今後の活動をさらに発展させるため、「FARM と環境貢献可視化」「食と健康」「コミュニティと学び」のテーマを基に3つの分科会を設立し、各分科会で知識を深め、より具体的な連携につなげていく予定です。

・地域可能性創造事業

アーバンテック(先端技術の地域活用)

先端技術とエンターテインメントを掛け合わせ、都市空間の体験価値を向上させる実証実験を実施しました。主な成果として「Shibuya X-Journey Project」を始動し、アニメ『夜のクラゲは泳げない』と連携した次世代街歩き AR「Scape Story」を展開。聖地巡礼による都市回遊を促し、新たな物語体験を提供しました。

また、同作と連動した「バーチャル宮下公園」では、コミュニケーションボードによるリアル・バーチャル連動検証を行い、物理的制約を超えて人々が繋がる新しい公共空間を創出しました。

さらに、Roblox 上でマナー啓発を行う「FIND THE HALLOWEEN SHIBUYA」の公開や、大阪での「AIR RACE X 2025」AR 観戦など、渋谷発のアーバンテック・モデルの他都市波及と社会実装を大きく進めました。

これからのまちづくり戦略

渋谷交通ワーキングを中心とした今年度の活動は、主に3つの実績を出しました。

Shibuya Mobility Design 2025 では、複数業者から提供を受けたスモールモビリティの OD を見える化、解析し、渋谷駅を中心とした移動の実態を把握し、その結果と提言を白書としてまとめリリースしました。渋谷交通ワーキングは年度内に6回の勉強会を実施し、モビリティ各社が直接対話する場を提供し、事業の競合をこえた共創のプロジェクトを実現させました。

地元との協議会連携においては、自転車まちづくり協議会にオブザーバー参加し、街の声を収集し、検証に用いることができるデータの提案などを行いました。

また、交通ワーキングにとどまらない都市データ勉強会も開催しました。

・コーポレート系事業

広報

SIW の YouTube チャンネルを「渋谷未来デザインチャンネル」に変更し、SIW だけでなく年間を通してプロジェクトの活動や、渋谷で活動しているキーパーソンの紹介コンテンツなどを公開し、チャンネル登録数2万人を達成しました(2026年3月末時点)。

さらなるメディア化を目指し FDS の価値向上を促進します。

また、2026年1月より FDS の共創パートナー及び連携パートナーを主な対象とした会員限定の学びの場であり、行政と企業の協働を軸に、社会実装のプロセスを実践的に学ぶことを目的とした「Co-Creation Academy」を開催しました。約40名が参加し、SIW2026でのプロジェクト発表を目指します。

法人会員制度

本年度新たに会員となった企業は表2のとおりでした。

表2 新規会員企業一覧

共創パートナー (計9社)	連携パートナー(計17社)
東急株式会社、株式会社日建設計、東急不動産株式会社、大日本印刷株式会社、フィリップモリスジャパン合同会社、株式会社LUUP、株式会社ニューバランスジャパン、ダイキンHVACソリューション東京株式会社、カバヤ食品株式会社	株式会社中島董商店、ユニ・チャーム株式会社、株式会社トランジットホールディングス、東京海上日動火災保険株式会社、株式会社ビーズインターナショナル、株式会社サイバーエージェント、ハーマンインターナショナル株式会社、有限会社OVER THUMPZ、株式会社IAM、株式会社東急コミュニティー、ピクシブ株式会社、FiLL'sホールディングス株式会社、日本コカ・コーラ株式会社、株式会社ウィル、株式会社TSIホールディングス、ディップ株式会社、株式会社ポケモン
パブリックパートナー(計11社)	賛助会員 (計8社)
一般社団法人渋谷MICE協会、一般社団法人シブタン、東京都市大学 渋谷PXUセンター、特定非営利活動法人One Rugby、一般財団法人渡辺記念育成財団、渋谷公園通商店街振興組合、特定非営利活動法人ピープルデザイン研究所、公益財団法人山田進太郎D&I財団、一般社団法人日本旅行業協会、一般社団法人アートパワーズジャパン、公益社団法人ジャパン・プロフェッショナル・バスケットボールリーグ	三葉興業株式会社、aora株式会社、株式会社テー・オー・ダブリュー、株式会社one、関西エアポート株式会社、株式会社zero、株式会社B-connect、味の素AGF株式会社

・その他の活動

都市共創ネットワーク推進

都市共創ネットワーク推進を目的として国内のまちづくり団体やエリアマネジメント組織等との連携・協力を進めるとともに、各種会議体への参画や視察交流などを通じて都市づくりに関する共創のネットワーク形成を推進しました。

特に設立以来始めてとなる先進都市視察会を主催し、20名の参加者とともに、大阪のうめきた地区のまちづくり事例（グラングリーン大阪、AIR RACE X 2025 視察等）から学びを得ることができました。

その他、区内認定まちづくり団体(渋谷・東地区まちづくり協議会、道玄坂周辺地区まちづくり協議会)への参画、任意団体である渋谷駅周辺地域まちづくり団体連携連絡会での意見交換、産官学民連携評議委員会ほか区議会総務委員会、官民連携事業調査特別委員会での質疑や意見交換の機会をいただきました。

学生連携

8 大学との対話を重ねた中で、新しく立ち上がった GO GLOBAL PROJECT にて実践女子大学との連携、渋谷グッドマナープロジェクトにて、城西国際大学の学生により、渋谷の社会課題解決ゲームとして、渋谷のゴミ問題に関するアイデアカードゲームが完成しました。渋谷区内の学生をはじめ、今後もゲームを浸透させていきます。

3 参画パートナー企業に関する事項

FDS 設立に関わった参画パートナーは表 3 のとおりです。

表 3 参画パートナー企業一覧 (年度末現在)

参画パートナー (計 15 社)
渋谷区、株式会社アカツキ、株式会社 NTT ドコモ、京王電鉄株式会社、株式会社シブヤテレビジョン、ソニー株式会社、大日本印刷株式会社、株式会社デジタルガレージ、東急株式会社、東急不動産株式会社、株式会社日建設計、株式会社パルコ、株式会社バンダイナムコアーツ、株式会社みずほ銀行、レノボ・ジャパン合同会社

4 パブリックパートナーに関する事項

パブリックパートナー制度は、パブリックパートナー間、パブリックパートナーとパートナー会員企業との連携、協力による新たな可能性を拡充することを目的とした制度です。国及び地方公共団体、一般社団法人及び一般財団法人、公益社団法人、NPO 法人、学校法人及び独立行政法人、その他が対象で、現在のパブリックパートナーは表 4 のとおりです。

表 4 パブリックパートナー一覧 (年度末現在)

パブリックパートナー(計 39 法人/団体)
一般社団法人 SWITCH、一般財団法人渋谷区観光協会、公益社団法人渋谷区勤労者福祉公社、一般社団法人渋谷再開発協会、一般社団法人日本カーボンニュートラルウェブ協会、一般社団法人渋谷フォント、京都市、ブラジル大使館、一般社 MUTEK JAPAN、学校法人青山学院青山学院大学シビックエンゲージメントセンター、一般社団法人 MASHING UP、一般社団法人日本ディープラーニング協会、公共財団法人ジョイセフ、一般社団法人 Metaverse Japan、一般社団法人未完、一般社団法人あそび庁、公益社団法人日本女子プロサッカーリーグ、学校法人沖永学園帝京短期大学、一般社団法人ジャパンボイスアンドヘルス協会、一般社団法人日本フェムテック協会、情報経営イノベーション専門職大学、学校法人日本大学商学部、一般社団法人ピックアッププレイグラウンド、国立大学法人東京外国語大学 学際研究共創センター、一般財団法人渋谷区スポーツ協会、一般社団法人渋谷区中小企業診断士会、東京商工会議所渋谷支部、宇都宮市、一般社団法人渋谷 MICE 協会、一般社団法人シブタン、東京都市大学 渋谷 PXU センター、特定非営利活動法人 One Rugby、一般財団法人渡辺記念育成財団、渋谷公園通商店街振興組合 特定非営利活動法人ピープルデザイン研究所、公益財団法人山田進太郎 D&I 財団、一般社団法人日本旅行業協会、一般社団法人アートパワーズジャパン、公益社団法人ジャパン・プロフェッショナル・バスケットボールリーグ

5 役員に関する事項

理事7名、監事1名の8名が役員総数です。役員の状況は表5のとおりです。

表5 理事一覧 (年度末現在)

氏名	地位および担当	重要な兼職
小泉 秀樹	代表理事	東京大学教授
佐藤 仁	理事	東京商工会議所渋谷支部会長
大西 賢治	理事	渋谷区商店会連合会会長
松澤 香	理事	渋谷区副区長
川津 美加子	理事	西武信用金庫 常務理事
松本 賢司	業務執行理事	渋谷未来デザイン事務局参事
佐藤 新子 (長田 新子)	業務執行理事	渋谷未来デザイン事務局長
太田 諭哉	監事	公認会計士、税理士

6 Future Designer に関する事項

FDSが執行する事業及び特別正会員が提案する事業案件に対し多様な視点から、事業化の方向性を決めて付加価値を与える助言を行う特別アドバイザーメンバーです。メンバーは全9名で表6のとおりです。

表6 Future Designer 一覧 (年度末現在)

氏名	所属
大日方 邦子	一般社団法人日本パラリンピアンズ協会理事
齋藤 精一	パノラマティクス 主宰
左京 泰明	特定非営利活動法人シブヤ大学代表理事 一般社団法人マネージング・ノンプロフィット代表理事
関 治之	一般社団法人コード・フォー・ジャパン代表理事 株式会社 HackCamp 代表取締役会長
佐藤 夏生	株式会社 EVERY DAY IS THE DAY クリエーティブディレクター/Co-CEO
夏野 剛	近畿大学 特別招聘教授 情報学研究所長
野村 恭彦	Slow Innovation 株式会社 代表取締役/金沢工業大学 虎ノ門大学院 教授
林 千晶	株式会社 Q0 代表取締役社長
若槻 千夏	タレント/デザイナー

7 会議に関する事項

実施された社員総会と理事会は表 7 のとおりでした。

表 7 社員総会・理事会一覧 (年度末現在)

種別	日付	場所	出席	議案
社員総会				
第 7 回 定時 社員総会	2025 年 6 月 20 日	渋谷区役所 9 階庁議室 及び WEB 会議	社員 2 名	第 1 号議案 2024 年度(第 7 期)計算書類承認の件 報告事項 第 7 期事業報告
理事会				
第 36 回	2025 年 6 月 4 日	渋谷パルコ 9F 渋谷未来デザイン 会議室及び WEB 会議	理事 6 名 監事 1 名	第 1 号議案 2024 年度事業報告について 第 2 号議案 2024 年度決算報告について 第 3 号議案 2025 年度事業計画について 第 4 号議案 2025 年度収支予算について 第 5 号議案 定時社員総会の招集について 報告事項 法人会員の状況について
第 37 回	2025 年 9 月 26 日	渋谷パルコ 9F 渋谷未来デザイン 会議室及び WEB 会議	理事 6 名 監事 1 名	報告事項 事業進捗状況について 法人会員の状況について 第一四半期決算について
第 38 回	2025 年 12 月 17 日	渋谷パルコ 9F 渋谷未来デザイン 会議室及び WEB 会議	理事 6 名 監事 1 名	報告事項 事業進捗状況について 法人会員の状況について 第二四半期決算について
第 39 回	2026 年 3 月 9 日	書面決議		第 1 号議案 一般社団法人ササハタハツまちラボ への設立時社員としての参画について 第 2 号議案 利益相反取引について
第 40 回	2026 年 3 月 27 日	渋谷パルコ 9F 渋谷未来デザイン 会議室及び WEB 会議	理事 7 名 監事 1 名	第 1 号議案 2026 年度事業計画書(案)について 第 2 号議案 2026 年度収支予算書(案)について 第 3 号議案 利益相反取引について 報告事項 法人会員の状況について 第三四半期決算について

また、渋谷区産官学民連携組織評議員会は表 8 のとおり開催されました。

表 8 渋谷区産官学民連携組織評議員会 (年度末現在)

日付	場所	出席評議員	所属	議案
2025 年 7 月 14 日	渋谷区役所 庁議室	針本 正行 (座長) 稲積 宏誠 高橋 裕子 小林 三雄 奥野 和宏	國學院大學学長 青山学院大学学長 津田塾大学学長 渋谷区町会連合会会長 渋谷区まちづくり推進部長	議題 1 令和 6 年度事業概要と収支 議題 2 令和 7 年度事業概要

2026 年 5 月 26 日作成